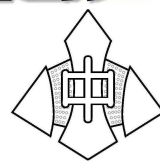


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年10月8日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

平和への願いを繋ぐ ～忘れてはならない大戦～ 郡山市平和推進事業「2021 ナガサキへのメッセージ」

今、人々の多くが戦争を知らない世代となりつつある中で、今日の平和が先の大戦の大きな犠牲の上に築かれたかけがえのないものであることを、我々は忘れてはなりません。今年の夏休みには、私から戦争に関するテレビ番組や新聞記事等から戦争について考えるという『夏休みの宿題』を出しました。

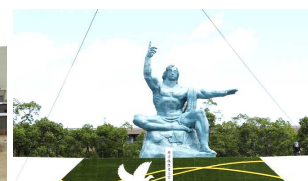
郡山市は「郡山市核兵器廃絶都市宣言」を掲げ、市内の中学2年生（各学校代表1名）を被爆地長崎市へ派遣する事業を平成8年度からスタートし、平成23年度（震災の影響で中止）、令和2年度（コロナの影響で中止）を除き毎年度実施しており、今年度で24回目となります。

今年度は、派遣事業の中核である長崎市が実施する青少年ピースフォーラム（平和関連施設視察・全国の中学生との意見交換）がオンライン開催となったため、現地への派遣は行わず、オンライン参加による研修活動“郡山市平和推進事業「2021 ナガサキへのメッセージ」”として実施されました。本校からは、2年松崎結さんが学校代表として参加しました。

8月8日（日）には、開会行事（被爆体験講話など）、平和学習（被爆遺構を現地からガイド）を行い、原爆が投下された8月9日（月）には、平和祈念式典を視聴、その後青少年ピースフォーラム（全国の中学生との意見交換）などが行われました。今回は現地に行って、原爆の遺構に直接触れたり、祈念式典に参加したり、同じ中学生と語り合ったりすることができず、五感で感じ取ることは難しかったかもしれませんが、松崎さんにとっては多くのことを学ぶことができ、財産となる貴重な2日間になったと思います。ここでは、松崎さんが“若き戦争の語り部”となって研修の成果をまとめた報告書を紹介します。彼女自身のつらい経験をオーバーラップさせながら、平和に対する強い想いがしっかりまとめられています。じっくり読んでみてください。



8月9日11時2分黙祷を捧げました



長崎市と郡山市をオンラインで結び研修を進めました



今回研修に参加した28名の中学生たち

過去はぬぐえない ～平和への一歩～

2年
松崎 結



1 派遣研修への参加に当たって

私が原爆について知っていることを挙げるとすれば、核分裂の膨大な力でおきた大惨事ということくらいで、知識も興味も無かった。しかし、「原爆の被害があったからこそ、今の平和がある。」という言葉に耳にし、自分の心の中で何かが弾けるような気持ちになった。そのようなときに、今回の研修の話があり、気になって原爆のことを少しだけ調べてみた。息が止まるような場面の写真も目にした。この機会に、あの言葉の意味を確かめてみたいと思うようになり、今回の研修を希望した。

2 派遣研修に参加して心に残ったこと

(1) 被爆体験講話

8歳の頃に被爆された奥村アヤ子さんの講話を聞く機会があった。特に印象に残ったのは、アヤ子さんの兄についての話だ。アヤ子さんの友達の兄は右の写真の通り黒焦げで見つかったが、アヤ子さんの兄は見つからなかった。アヤ子さんはどう感じただろうか。もし私に兄がいて黒焦げで見つかったらどう思うだろう。見つからなくても黒焦げの状態の人を見れば、兄も同様だと感じ、その光景が一生脳裏に焼き付いてしまうのではないかなと思う。少し状況は違うが、私にも生まれてくるはずの妹がいたが、逢えることなく死産してしまった。逢えなかったことが今でもとても悲しい。私やアヤ子さんのように、逢えるはずの人と逢えなくなってしまう、辛く苦しい思いを経験する人がこれ以上増えないように、私たちは平和への願いを持ち続けなければならないと強く感じた。



(2) 平和祈念式典 ～ 合唱 千羽鶴 ～

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では、今年被爆50周年記念「千羽鶴」の合唱が行われた。歌詞には、紺・白・赤・紫・黄・青・緑・藍・桃・虹色の鶴が出てくるのが印象的だ。聴いていてとても勇気が沸いてくる。原爆の被害の生々しさ、何度挫けようとも倒れない力強さ、尊い平和を心から祈る想い、その感情が、ダイレクトに、痛いほど私の胸に突き刺さった。

3 派遣研修に参加して感じたこと

過去、戦争が勃発したことで、国民は戦争中心のより厳しく、ただただつらい人生を強いられた。今では考えられないことであるが、その歴史があってこそその平和であることに気づかされた。深く体や心に刻まれた傷も、原爆の犠牲になった多くの命も、起こってしまったことはもう戻せないし、過去はぬぐえない。「どうすれば平和になるのだろう」と考えていたが、「皆が意見を出し合い、よりよくしていくのが平和ではないのか」と思えてきた。私が今まで知らなかった原爆を知ることで見方が変わり、意見交換会を行ったことで平和とは何なのか、今私たちにできる平和の第一歩は何かという疑問に全身全霊で向き合えた気がした。一人ひとりが平和への考えを持ち、今の時代に合った方法で意見を出し合える日がくると願っている。

“立て看板”リニューアル!

創立60周年記念事業第2弾として、9月15日(水)に東部幹線から本校への入口に建てられていた看板がリニューアルされました。



創立20周年時に作られた看板が40年の役目を終え、撤去されました。新しい立て看板は、シンプルなデザインですが、とても見やすくきれいな看板です。これから何十年になるかわかりませんが、長い年月の間、小原田中生を見守っていくことになります。創立60周年記念事業の環境整備事業は、玄関前の校歌碑の周辺整備に続き、今回の立て看板設置が行われ、無事終了となりました。



リニューアルされた立て看板

保護者の皆様へ

9月23日(木)をもって本市の「まん延防止等重点措置区域」が解除され、10月4日(月)からは、可能な限りの感染症対策を行った上で通常の実施が実施できるようになりました。来週には修学旅行と学習旅行を実施します。規模縮小、内容の組み替え等による実施となりますが、“仲間と過ごす特別な時間”として有意義なものにしてほしいと願います。

また、友垣祭につきましては、内容はコロナ以前のものに戻しての実施とします。ただ、参観は3年生の保護者の方に限定させていただきました。どうかご了承ください。今後、感染状況を注視しながら、行事を含めた教育活動について段階的な対応をとりながら、通常に近いかたちにしていきたいと考えております。今後も気を緩めることなく感染症対策と教育活動の両立を図ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

